

offers us — The
ction / “Compo-
thin objects”
delightful tactile
reading room
hibition / “LINK
With Tea exhibi-
we see the
es!” exhibition

Gift: what design offers us — The
Keiji Nagai Collection / “Composition — Rules within objects”
exhibition / “The delightful tactile
illustrated book reading room
from France” exhibition / “LINK
TO LIFE” Scene With Tea exhibi-
tion / “Why don’t we see the
forest AND the trees!” exhibition

ATELIER MUJIは、

くらしの原点に立ちかえり、未来へすすむヒントを見つける工房です。

2001年にオープンした無印良品 有楽町店が2018年12月で閉店します。

それに伴い、開店当初から活動していたATELIER MUJIも、

その活動を終えることになりました。

その間、Open MUJIと名前が変わる事もありましたが、

ATELIER MUJIではじまり、ATELIER MUJIで終わります。

2018年は国内5、海外1の展覧会を開催しました。

年明けは、近現代デザインコレクターの膨大なコレクションから、

ギフトをテーマにデザインが暮らしや社会を豊かにする空間とイベントを展開、

春には現代アーティストとクリエイターたちがモノを巡る考察を表現し、

夏は、フランスからやってきた誰でもさわってたのしめる手作りの絵本を

インクルーシブな読書室で満喫したり、

秋は日本茶の文化を現代的に嗜み、

冬には、木や森を育み糧とする方々が日本の各地から集結し、

デザインのちからで手を動かす楽しさを伝える広場となりました。

永きにわたりATELIER MUJIの活動をみまもり支えて下さった

すべてのみなさま、そしてご来場、ご参加いただいたみなさまに、

心より感謝いたします。

そして、2019年4月、

無印良品 銀座店 ATELIER MUJI GINZAは誕生します。

新しい場所、新しい名前でもた、お目にかかりましょう。

ATELIER MUJI

ATELIER MUJI is:

A workshop that provides clues on how to move into our future
by looking back to the origins of our lives.

After having opened in 2001,

MUJI Yurakucho will close its doors as of December, 2018.

Together with this closure,

ATELIER MUJI will cease its activities at these premises.

It started as, and will finish as ATELIER MUJI,

although it was also called Open MUJI for a certain period.

In the year 2018, 5 exhibitions took place in Japan as well as 1 overseas.

When the new year arrived,

a gift-themed exhibition and related events were organised,
inspired by an enormous modern-to-contemporary design collection,
that enriched our lives and society in general;

In Spring, creations by modern artists and creators filled

a space based on thoughts about “objects”;

Once Summer began,

we enjoyed a new experience in an inclusive reading room
exploring handmade tactile picture books made in France;

When Autumn came,

we learned how to appreciate Japanese tea culture in a modern way;

Finally, in Winter, those nurtured by woodlands and forests came together
from all over Japan, and created an open space to share the enjoyment of
design and its ability to motivate us to create something with our own hands.

We would like to thank all those who supported the ATELIER MUJI activities
over this long period, and all those who came to see our exhibitions or
participated in the related events.

And soon, in April 2019,

ATELIER MUJI GINZA will be born in the MUJI GINZA store.

We look forward to seeing you again at this new site, with its new name.

ATELIER MUJI

ATELIER MUJI



お直し工房



紳士用は1F

09 『ギフト デザインの贈りもの展—永井敬二コレクション』

Gift: what design offers us — The Keiji Nagai Collection

25 『コンポジション—モノが持つルール』展

“Composition — Rules within objects” exhibition

39 『フランスの、さわってたのしむ絵本読書室』展

“The delightful tactile illustrated book reading room from France” exhibition

51 『「LINK TO LIFE」茶のある風景』展

“LINK TO LIFE” Scene With Tea exhibition

61 『木を見て森を見る!』展

“Why don't we see the forest AND the trees!” exhibition

『ギフト デザインの贈りもの展——永井敬二コレクション』

Gift: what design offers us — The Keiji Nagai Collection / “Composition — Rules within objects” exhibition / “The delightful tactile illustrated book reading room from France” exhibition / “LINK TO LIFE” Scene With Tea exhibition / “Why don’t we see the forest AND the trees!” exhibition

『ギフト デザインの贈りもの展—永井敬二コレクション』

2018年1月26日(金)→2018年4月15日(日)

生活美学の専門店という視点から始まった無印良品。デザインには、いろいろな機能や作用がありますが、ものとの、ものと人、人と人をつなぐチカラがありそうです。

本展では、福岡在住のインテリアデザイナー、永井敬二氏が50年にわたり自分自身の目と手と足で世界中から集めた、暮らしを豊かにする膨大なプロダクトデザイン・コレクションの中から、ギフトをテーマにセレクトしました。また、自宅に溢れんばかりに集積され、4つの倉庫（現在は2つ）に大量に収納されたコレクションの、ほんの一部をご紹介します。それらはジャンルも、家具、生活雑貨、電化製品、福祉用品、書籍など多岐に渡っています。

永井氏のコレクションは、ものとして美しく、道具として優れていることはもちろんですが、デザインとは、人間や暮らしにとって何か、という根本的な問いに答えをもたらす物語が、ひとつひとつのプロダクトにこめられています。

この場所に、ものを通じて世界中のデザイナーや多くのひとたちとつながり、そして相手を思いギフトを贈り合う永井氏が築いた特別な空間と時間を、ほんの少しだけ切り取りました。ここが、みなさまへのささやかなギフトとなれば、幸いです。

Gift: what design offers us—The Keiji Nagai Collection

Friday, 26 January 2018—Sunday, 15 April 2018

MUJI started its journey from being a specialty store with a point of view on life aesthetics. Design has varied functions and effects. Moreover, it seems that design has the power to connect objects to objects, objects to people, and people to people.

In this exhibition, “Gift” themed products are specially selected from Keiji Nagai’s vast product design collection that enriches our everyday life. In the last 50 years, he has travelled all around the world from his home in Fukuoka. Using his hands, eyes and feet, he has been carefully gathering each item to be included in the collection. For this exhibition, only a small part of his entire collection is on display from his own residence as well as from 4 separate warehouses (since consolidated into 2). It covers a wide range of product genres from furniture, home décor, electrical appliances to welfare products and books.

The Nagai collection is filled with beautiful yet functional objects, with each item telling a story that answers the fundamental question of what design means to human beings and to their lives.

Here in this limited ATELIER MUJI venue, we have framed a small but special space and time that Nagai has been creating over a period. It is a place where we could offer a thoughtful “Gift” to each other, and where these objects help us to be in touch with designers and ordinary people all over the world.

We will be pleased if you appreciate this exhibition as our modest gift to you.



僕とコレクションについて

永井敬二

1966年に社会に出て初めて購入したのは、柳宗理さんの〈バタフライチェア〉でした。

日本の椅子に始めて海外の椅子を手にしたのは、その2年後のこと。イタリアの建築家ジオ・ポンティの超軽量チェア〈スーパーレグジェラ〉です。それから半世紀を超えた今、僕の椅子のコレクションは1000種類を超え、椅子以外のものに至ってはその数さえ把握できていません。なぜ蒐集するのか？とよく訊かれます。まず、ものから「こっちを見て」と声をかけられるといいますか、ハッとさせられる。ものとの出会いは、何かが違うと感じ、心地よい余韻を残す「人」との関係にも似ています。そうしたものを見たい、それが何なのかを知りたい、人と分かち合いたい、という思いでひたすら集めてきました。

本展は、そのささやかなお裾分けです。

今、コレクションは不本意ながら自宅と倉庫にただ山積み状態になっています。僕の望みは、出来る事ならばいつかこのもの達を多くの人たちと分かち合えるサロンのような場所を開くことです。すばらしいものが生成するプロセスを考え、いつか皆さんと一緒に楽しめる場所を持てますように。

Me and my collection

Keiji Nagai

In 1966, I bought Sori Yanagi's "Butterfly chair" as my first object after leaving school. Starting from this Japanese chair, 2 years after that I bought my first foreign chair, "Superleggera" by Gio Ponti, the Italian architect. Now, more than half a century later, my chair collection has grown to over 1000 models, and for other genres I have lost count.

I am often asked "why are you collecting objects?". First, it is as if objects ask me to notice them. "Look at me" they seem to say—in other words, I get startled by them. An encounter with an object is similar to one with people. You notice something different to start with, and then feel a comfortable after-effect in their presence. My motivation for collecting has been to see objects like this, to know what they are and to share them with other people.

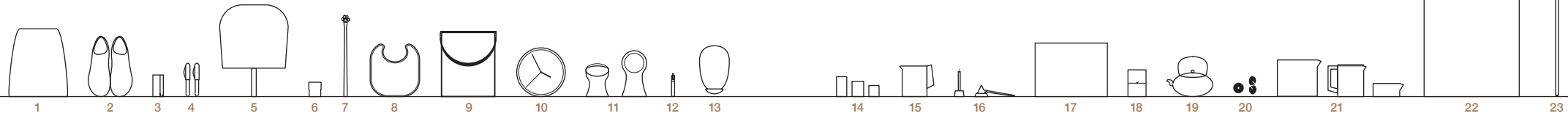
This exhibition is a humble gift to you from my collection.

I am reluctant to say that my collection is piling up in my home and warehouses. My hope is to open a salon-like space where I can share these objects with many more people one day. I wish that I could have the space to enjoy it with you in the future, a place where we could think about the process of creating wonderful objects.





展覧会ハンドアウト



1—親しい友人へ

- リュック (pbb&o/タイ)

タイ製のシンプルなリュックは永井さんの愛用品です。いくつか購入して友人にプレゼントしました。生産中止になって注文しようとしたところ、ミニマムオーダーは1000個、と言われ断念。今も持っている、見知らぬ人から「どこで買ったの?」と時々聞かれます。

2—中里隆さんへ(唐津焼陶芸作家)

- 靴 ※無印良品で廃番となり、永井さんが個人使用のためカスタマイズし、オーダーメイドしたもの

これは永井さん愛用の靴です。もとは無印良品の合成皮革の靴でしたが生産中止に。そこで友人に靴メーカーを紹介してもらい、足型を起こしオーダーメイドしました。この靴が履けるのは永井さんと同じ靴サイズの友人のみ。親交の深い、唐津焼陶芸作家、中里隆さんの傘寿(80歳)のお祝いに贈りました。

3—メモ好きな友人へ

- SHORTY (Parker社→Worther社/ドイツ)

ドイツ製の芯ホルダーはとくにドローイングに適しています。「昔東京に行くと、デザイン関係者がみなこのホルダーを使っていたのが印象的だった」と思い出します。

4—メモ好きな友人へ

- トラディオ プラマン(ベトナム)

「すらすらと万年筆のような書き心地でボタらない」。機能性の高さでケース買いし、友人に折々渡しています。

5—夏の手みやげに

- 韓国団扇

ソウルの紙屋さんで見つけた竹と韓紙のシンプルな団扇は、「夕涼みによからう?」という夏のお土産の定番です。「日本の団扇ほどきっちり仕上げないところに味がある」とリビートして買っています。

6—海外の友人へ

- 湯呑み(隆太窯)/中里隆/1974

唐津焼の陶芸作家、中里隆さんが作る粉引きのお湯のみです。海外の友人への贈り物の定番で、日本から複数持って行きます。

7—親しい友人へ

- 孫の手

友人と温泉に行った際に見つけた猫の肉球型の孫の手。永井さんはこれを見入り、少しだけアレンジして友人たちに贈りました。

8—出産祝いに

- よだれ掛け(マザーケア社/イギリス)・ふくろ/田中博子

出産祝いの定番は、マザーケアの無地のよだれかけ大小10枚セットとジム・トンプソンのタイシルクの象のぬいぐるみ。それをドロンワーク刺繍を施したベトナム製の袋に入れて贈ります。無地のよだれかけの品揃えは希少で、永井さんはわざわざタイ、バンコクの店まで行って購入します。

9—パーティーに

- マルチポット (L) (吉川工業所 like-it)

永井さんは白のマルチポットを「美しいバケツ」と呼んでいます。贈る時は、小ぶりの缶ビールと氷を詰めて持って行きます。展覧会のオープニングやパーティーに、「バケツ」片手に登場します。

10—新築祝い、引っ越し祝いに

- 掛け時計 (Riki Clock RC) (タカタレムノス社/レムノス)/渡辺力/2003

永井さんは、1977年に銀座松屋7階デザインギャラリーで開催された「壁時計 渡辺力+Q デザイナーズ」展を訪れて以来、渡辺力さんの時計に惚れ込みます。このモデルにはブライウッドを曲げ加工したフレームに職人技術が生かされています。

11—安藤忠雄さんへ(建築家)

- セクティコンT1、セクティコンC1 (Portescap/Le Porte-Echappement Universel社/スイス)/アンジェロ・マンジャロッティ/1956

94年に安藤忠雄さんより、アンジェロ・マンジャロッティ、デザインの時計セクティコンを譲って頂けないかと連絡を受けます。古いオリジナルのムーブメントが正確に機能しなかったため、永井さんはお金は要りません、と時計を差し上げることに。安藤さんからはお礼の手紙とご自身がデザインした椅子が届きました。

12—サバッティーニさんへ

- (イタリアの銀器ブランド「Sabattini」オーナー)

- 銀製振出箸/永井敬二

東京・平和島の骨董市で、永井さんは携帯用の銀製振出し箸の存在を初めて知ります。これを再現するため東京の金銀器協業組合で銀の振り出し箸の製作を依頼。一方、箸ケースは大学の竹職人に製作してもらいました。

13—デザイナーの奥様へ

- ペンダント/安間邦昭

木製のバターナイフなどで知られる大分県日田市の木工職人、安間さんのアトリエにあった試作品のペンダントを見つけ、興素材のコンビネーションが気に入った永井さんは即オーダーしました。デザイナーのお宅に招かれた時などに奥様へプレゼントします。

14—親しい友人へ

- 白磁湯呑み(大・中・小)/永井敬二

永井さんは、透けるような薄手の磁器の湯呑みをデザインしました。底まで釉薬でカバーするため伏せ焼きにし、焼成中に形が歪まないようハマを敷くなど、完成まで手間のかかる磁器です。頂いた友人たちは、和洋を問わず使える食器として愛用しています。

15—展覧会のオープニングに

- 白磁ビッチャー/永井敬二

ここぞという時に贈りたい品がお店で手に入らない。そんなことがないように、永井さんは花器としても使える磁器ビッチャーをデザインし、佐賀県の窯元で焼いてもらって手元にストックしました。黄色の花か、かすみ草を生けて届けます。

16—親しい友人へ

- キャンドルスナッフアー/永井敬二

このキャンドルスナッフアーは、本体は磁器製、ハンドルは解体された家屋の床柱を譲り受けた貴重な黒檀です。海外の友人に贈ったり、また日本では仏壇用として贈ることもあります。仏様の前にもモダンな空気が流れ始めます。

17—エンツォ・マリーさんへ(デザイナー)

- 積み木バズル(16 animali) 16 アニマリー/エンツォ・マリー/1957

動物バズル(16 animali)は、ダネーゼ社が59年に木製で製品化してから、ポリウレタンなど多様なマテリアルで生産されてきました。ある日永井さんはウェンジ材のものを見て感動し、何としても入手したくなります。個人で素材を仕入れ、糸鋸の第一人者小黒三郎さんを説得し制作してもらいました。※本品はダネーゼ社での生産が中止となっていた時期に、マリー氏本人の許可をもらって個人使用のため制作されました。

18—手みやげに

- 巾巾(かや棉・ふきん)/井上企画(※福岡「トラム」カスタマイズ)

蚊帳に使われる荒織りの綿を素材にしたふきんは、吸水性に優れています。永井さんご用達の雑貨店「トラム」では、このふきにループを縫い付けて販売しています。小さな工夫をプラスしているのを気に入り、手みやげの定番になりました。

19—海外の友人へ

- 鉄瓶(南部鉄器 鑑定)/宮伸穂/1974

岩手県、南部鉄器の老舗が製造する、モダンなフォルムが洋食のテーブルにも溶け込む鉄瓶です。永井さんはこの一品を、日本を代表する日常の道具として海外の友人に贈ります。鉄のお瓶もお気に入りです。

20—手みやげに

- 紀州産棕櫚束子 まる・ねじり/高田耕造商店

束子らしくなくておもしろい、と気に入っているまん丸の束子。海外の手みやげにすると、これをペンダントヘッドとして使う友人もいて、なるほどと感心しました。

21—アイナー・ピーターセンさんへ(PPモブラー創業者)

- 秋田杉ワインクーラー・ビッチャー・片口/永井敬二・清水康孝(清水桶屋)

秋田杉の酒器をインテリア誌で見つけ魅了された永井さんは、その小さなオーバル型の酒器をイメージしつつ、より大型で円型の酒器をデザインします。秋田県能代市の桶職人、清水康孝さん(清水桶屋)が製作した一品です。木工を愛する友人へ贈ります。

22—グラフィックデザインを愛する友人へ

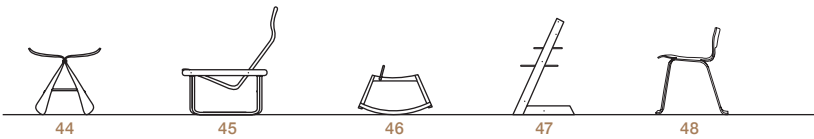
- カイ・フランク展 ポスター (Designmuseum Arabia/フィンランド)/Designmuseum Arabia./2006

ヘルシンキの〈デザインミュージアム アラビア〉で開催されたカイ・フランク展を訪れた折に、永井さんはそのポスターをまとめ買います。折々、グラフィックデザインが好きな友人に贈ってききました。

23—加藤昌宏さんへ(天童木工 取締役社長)

- 杖 (Kolds Savværk社→Orebo社/デンマーク)/ナナ・ディッツェル/1958

ナナ・ディッツェルさんがデザインしたドーナツ型ハンドルの杖に永井さんは魅了され、コペンハーゲンのディッツェルさんのスタジオを訪問します。どこで買えるかを聞きかかったのです。そうして購入したのがこの杖。足元のサポートを必要とする友人に贈りました。



23

展覧会イベント

オープニングトーク 「永井さんが語る、永井コレクション」

2018年1月26日(金) 13:30-15:00

会場: AGC旭硝子 AGC Studio

登壇者: 永井敬二 (インテリアデザイナー)、田代かおる (デザインジャーナリスト)

参加者数: 93名

半世紀に渡る膨大で貴重なコレクションについて、永井さんご本人と、そのアーカイブ化に取り組むデザインジャーナリストの田代さんがお話しました。

Opening talk “The Nagai Collection in Mr Nagai’s own words”

Friday, 26 January 2018, 13:30-15:00

Venue: AGC Studio (AGC ASAHI GLASS)

Speakers: Keiji Nagai (Interior designer), Kaoru Tashiro (Design journalist)

Participants: 93

Nagai, collector of great designs over half a century, talked about his vast and precious collection with Tashiro, the design journalist who has been working on archiving it.



トークショー 「永井さんと語ろう。 グッドデザインってなに？」

2018年2月6日(火) 18:30-20:00

会場: GOOD DESIGN Marunouchi

登壇者: 藤崎圭一郎 (デザイン評論家、編集者)、永井敬二 (インテリアデザイナー)、田代かおる (デザインジャーナリスト)

参加者数: 40名

デザインを集める人、教える人、伝える人、三者がそもそも優れたデザインとは何なのか、について語り合いました。

Talk show “Let’s talk with Mr. Nagai —What is good design?”

Tuesday, 6 February 2018, 18:30-20:00

Venue: GOOD DESIGN Marunouchi

Speakers: Keiichi Fujisaki (Design critic, editor), Keiji Nagai (Interior designer), Kaoru Tashiro (Design journalist)

Participants: 40

A collector, a professor, and a journalist talked about how they defined great design from each of their points of view.



ギャラリートーク

1月26日(金) 10:00-11:00

2月6日(火) 15:00-17:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

永井さんが会場に在廊し、展示されているコレクションについてお客様と直接交流するイベントを開催しました。

Gallery talk

Friday, 26 January, 10:00-11:00

Tuesday, 6 February, 15:00-17:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Nagai stayed in the gallery for the events to communicate with visitors on his own collection exhibited in the venue.

永井敬二 [インテリアデザイナー]

1948年、佐賀県唐津市生まれ。岩田屋関連のインテリア事業部を経て、82年にデザインスタジオ「ケイアンドデザインアソシエイツ」設立。モダンデザインのコレクターとして国内外に知られ文化交流に貢献。デンマーク王国より「Furniture Prize」受賞。モダンデザイン展への出品多数。

Keiji Nagai [Interior designer]

Born in Karatsu, Saga in 1948. Founded his design studio “K and design associates” in 1982 after working for Interiors Division related to Iwataya. Widely known inside and outside of Japan as a modern design collector, and for contributing to cultural exchange. Awarded the “Furniture prize” from Denmark. Frequently exhibiting in modern design exhibitions.



©Gianluca Widmer

『ギフト デザインの贈りもの展 — 永井敬二コレクション』

主催: 無印良品

企画協力: 永井敬二 (インテリアデザイナー)、田代かおる (デザインジャーナリスト)

協力: AGC旭硝子 AGC Studio、

公益財団法人日本デザイン振興会

グラフィックデザイン: 木住野彰悟 (6D)

企画・運営: 株式会社良品計画 生活雑貨部 企画デザイン室、無印良品 有楽町 ATELIER MUJI

来場者数: 35,100人

Gift: what design offers us — The Keiji Nagai Collection

Organiser: MUJI

Planning collaborators: Keiji Nagai (Interior designer), Kaoru Tashiro (Design journalist)

Cooperation: AGC Studio (AGC ASAHI GLASS), Japan Institute of Design Promotion

Graphic design: Shogo Kishino (6D)

Planning and Management: Household Division / Planning & Design Creation Office, Ryohin Keikaku Co., Ltd. and ATELIER MUJI at MUJI Yurakucho

Visitors: 35,100



入場無料 / 会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

※本展覧会開催中は、本サイトに掲載のURLで入場券の予約受付を行います。 / <http://www.muji.com/japan/exhibition/gift>

ATELIER MUJI

Gift: what design offers us — The
Keiji Nagai Collection / “Compo-
sition — Rules within objects”
exhibition / “The delightful tactile
illustrated book reading room
from France” exhibition / “LINK
TO LIFE” Scene With Tea exhibi-
tion / “Why don’t we see the
forest AND the trees!” exhibition

『コンポジション—モノが持つルール』展

2018年4月20日(金)→2018年6月24日(日)

想像と創造とカタチ

ひとが持つ力のひとつに、想像力があります。さらに、創造力が加わると、それがカタチになります。本展は、クリエイターと一緒に、ものを考えること、ものをつくること、またそれがある空間と時間を通して、私たちに宿る創造の可能性をみんなで更新してみよう、という展覧会です。

美術家を作る指示書という作品組み立て説明書には、無印良品が開発、製造、販売している商品の用途とかけ離れた「こと」が書かれています。

指示書というルールに従って「もの」である商品を素材として作品を作ってみると、作り手によってそのカタチはまちまちになりそうです。

想像と創造がカタチになるとき、自分も知らない自分に、ものを通して出会えるかもしれません。

“Composition — Rules within objects” exhibition

Friday, 20 April 2018 — Sunday, 24 June 2018

Imagination, Creation, Shapes and forms

One of the talents we human beings have is the capability of imagination.

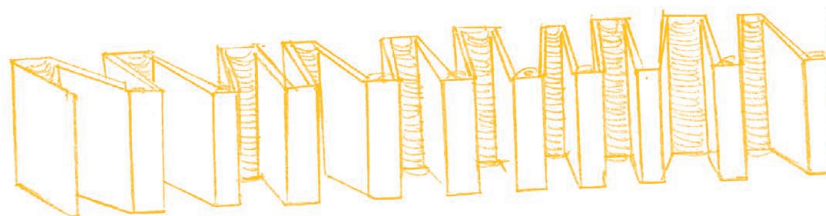
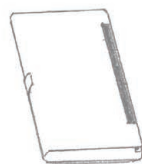
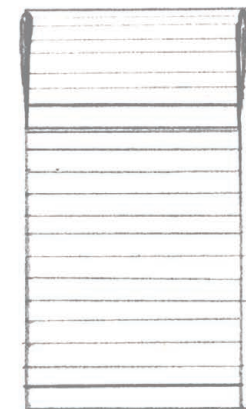
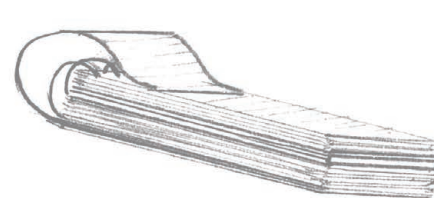
Once creativity is applied to this imagination, a shape or form comes to life.

We as visitors to this exhibition, together with its creators, will experience thoughts about objects and their creation in this particular time and space. This experience will give us an opportunity to renew our potential for inner creativity.

In the artist's world, an “instruction sheet” means a set of assembly instructions which are filled with “matter”, far from its original intended use for MUJI products that are developed, manufactured and sold in the stores.

If we make an artwork from some “things” or products by following the artist's instructions as rules, the resulting shape or form may vary from person to person.

When imagination meets creation, resulting in a certain shape or form, we may be able to encounter a brand-new side of ourselves through these objects.





つくるということ

富井大裕

私は作品と呼ばれるものをつくっています。さて、ここでいう作品とはなんなのか。答えようとするとちょっと困ります。特に私は既製品をそのまま拝借して、組み合わせたり、並べたりして別のものに仕立てているので、説明するのが難しいのです。敢えて言うと、つくることをつくっている(つくろうとしている)ということになるでしょうか。ひょっとすると、「ものを見ることについての実験をしている」のかもしれませんが。

私は作品をつくった後に必ず指示書(組み立て説明書)を残します。作品をつくる時に私が大事にしていることは、目の前にある「もの」ではありません。ものに込められた人間の創意工夫—「こと」です。ものの持つ色や形、量感や質感、雰囲気から、それを感じることができたら素敵です。指示書には、私のものづくりに対するそんな思いも書きとめられています。

この展示では、私がつくった作品(もの)とその指示書(こと)を同じ空間に置きます。そこから見えるものは、私たちがものに対して何気なくやってしまう行為、ちょっとした態度だろうと思います。私たちは、何気ないことからものを育み、ちょっとしたことでものを活かしています。つくるということはそういうことなのだと思います。

What we call "creating"

Motohiro Tomii

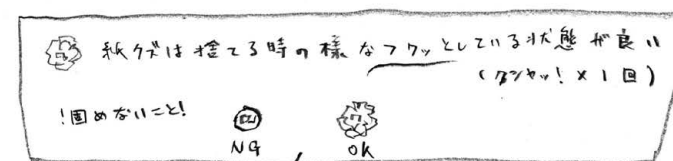
I create something, a so-called "work of art". So, what is a "work of art" in this context? It gives me trouble to answer this question. In my particular case, the elements of my works are products borrowed from everyday life. My work is done by making compositions with these products, or rearranging them, which is why it isn't easy to answer this question. If I am trying very hard, I might be able to say that "I create (or try to create) "creating"". Or, in other words, I might be "experimenting to observe things". I always keep an instruction sheet (assembly instructions) after finishing each piece of artwork. The most important thing for me in the creating process is not the final "thing"—the object in front of me—but rather the "matter"—the human creativity and ingenuity that have been put into the process. It would be fantastic if we could feel that from the colours and forms of the work, its textures, qualities and atmosphere. On the instruction sheet, I set out my desire in the artwork-making process. In this exhibition space, I show you both the work of art (thing) and the instruction sheet (matter) together. I expect that you will be able to understand our casual interaction or relationship with objects by looking at the works displayed here. We nurture our objects casually, and make the most of them in our own little way. That is my answer to what we call "creating".

composition for MUJI #5

〆 正位置

無印良品 折りたたみ紙ゴミ箱・角型・袋止め付・大 1個) を使って作品をつくる
再生紙らくがき帳 無地・B4, 折りたたみ紙 1〜2冊

① 下図の様にらくがき帳ページ1枚をカメたものをゴミ箱にいれる。



<横図>

ゴミ箱 紙が 1-15分 ぶら下る



OK

<上図>

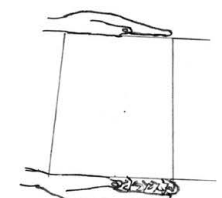
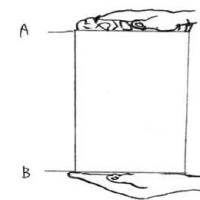


NG

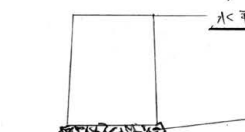
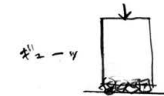
全体にまんべなく

ゴミ箱から紙クズを出さない

② A面とB面をそれぞれおさえ(A面:紙クズが動かない様に)A面,B面をひっくり返す。



③ ②の状態を床/台座に置く → ゴミ箱を上から押し下げる → ゴミ箱がカサを放す (紙クズがゴミ箱を押し上げる)



④ ゴミ箱、αプロポーションを整えて紙クズ → 完成

紙クズの状態は基本は成り行き

展覧会イベント

オープニングトーク 「作品と本をめぐる話 —イメージを束ねる」

2018年4月20日(金) 19:00-20:30

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

登壇者: 佐久間磨 (Rondade)、富井大裕

参加者数: 37名

本展の出展作家の富井さんと富井さんの作品集を出版した佐久間さんが作品と本の関係について語りました。

Opening talk “A talk around works and books —bundling images”

Friday, 20 April 2018, 19:00-20:30

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Speakers: Osamu Sakuma (Rondade), Motohiro Tomii

Participants: 37

Tomii, creator of the exhibited artworks, and Sakuma, the publisher of Tomii's collection of works, talked about the relationship between artworks and books.



トークショー 「展覧会ができるまで」

2018年5月28日(月) 19:00-20:30

会場: 無印良品 有楽町 3F Open MUJI

登壇者: 富井大裕、有元利彦 (HIGURE 17-15 cas 代表)、川村格夫 (ten pieces)

参加者数: 47名

本展の出展作家、会場構成や技術サポート、グラフィックデザイナーの3名が展覧会ができるまでの表と裏を語りました。

Talk show “How the exhibition was set up”

Monday, 28 May 2018, 19:00-20:30

Venue: Open MUJI, MUJI Yurakucho 3F

Speakers: Motohiro Tomii, Toshihiko Arimoto (Representative, HIGURE 17-15 cas), Tadao Kawamura (ten pieces)

Participants: 47

The creator of the exhibited artworks, the designer of the exhibition site with its technical support, and the graphic designer - the three people who created this exhibition revealed some behind-the-scenes episodes of how it came about.



海外巡回展

2018年7月13日(金)→8月26日(日)

会場: Open MUJI, MUJI Plaza Singapura

主催: MUJI (Singapore) PTE LTD

無印良品有楽町店で開催した本展はシンガポールのOpen MUJIに巡回しました。東京開催と同様に、グラフィックデザイナーの川村格夫、空間構成のHIGURE 17-15 cas、作家の富井大裕が協働。全作品のうち、会場の形状や広さに合わせて数点をセレクトし、一部作品は作家の指示書をもとに、シンガポールの店舗スタッフが日本の美術専門の施工会社の方と一緒に制作しました。さらに日本国外の方にも作品や作家情報を伝えるために、本展のために新たに撮り下ろした作家本人のインタビュー映像を展示に加えました。また、作品をより理解するために、開幕に合わせてキュレーターの鈴木潤子によるガイドツアー等を実施しました。いつも見慣れている商品が作家の指示書のもとに作品となる面白さに多くの参加者に楽しんでいただきました。ツアー後の質疑も盛り上がり、MUJIの活動に賛同を頂きました。

Overseas travelling exhibition

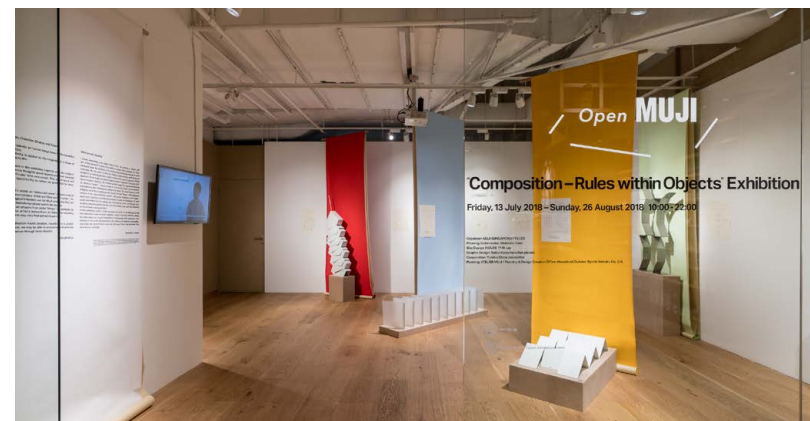
Friday, 13 July 2018 — Sunday, 26, August 2018

Venue: Open MUJI, MUJI Plaza Singapura

Organiser: MUJI (Singapore) PTE LTD

This exhibition travelled to Open MUJI in MUJI Singapore after being held originally in MUJI Yurakucho. As in Tokyo, graphic designer Tadao Kawamura, spatial structure designer HIGURE 17-15 cas and creator Motohiro Tomii cooperated to bring it overseas.

Works were selected from the original assortment of the first MUJI Yurakucho exhibition to fit into the form and size of the new venue. Following the creator's specifications, a part of the works was made by Singapore store personnel with a Japanese construction company specialised in art. We recorded an interview with the creator especially for this exhibition in Singapore to help a non-Japanese audience familiarise itself with him and his works. Also, guided tours by the curator Junko Suzuki and related events were held to help our new visitors to understand the exhibits. Participants seemed to enjoy seeing MUJI's own products turning into artworks after following the creator's specifications. Many of them actively joined in question-and-answer sessions, and also showed their support for MUJI's activities.





富井大裕

既製品に最小限の手を加えることで、それらを固定された意味から解放し、色や形をそなえた造形要素として、「彫刻」のあらたな可能性を模索する。Twitterにて毎日発表される「今日の彫刻」などと併せ、既存の展示空間や制度を批評的に考察する活動でも注目を集める。

Motohiro Tomii

Exploring new potential in "sculptures" by adding the smallest touches to products from everyday life. In using them as sculpting elements for their colours and forms, he frees them from their perceived stereotyped purpose. As well as his daily update of "Today's sculpture" published on Twitter, his activities, that often involve examining existing exhibition spaces or systems with his critical eye, are drawing more attention with the public recently.



『コンポジション—モノが持つルール』展

主催：無印良品

企画協力：富井大裕

会場設計：HIGURE 17-15 cas

グラフィックデザイン：川村格夫 (ten pieces)

協力：ユミコチバアソシエイツ

企画・運営：株式会社良品計画 生活雑貨部 企画デザイン室、無印良品 有楽町 ATELIER MUJI

来場者数：11,050人

"Composition — Rules within objects" exhibition

Organiser: MUJI

Planning collaborator: Motohiro Tomii

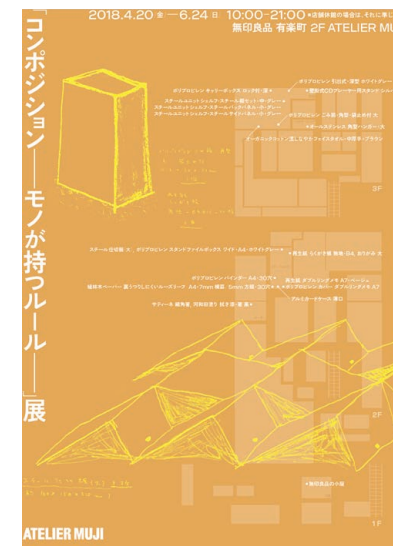
Site design: HIGURE 17-15 cas

Graphic design: Tadao Kawamura (ten pieces)

Cooperation: Yumiko Chiba associates

Planning and Management: Household Division/
Planning & Design Creation Office, Ryohin Keikaku Co.,
Ltd. and ATELIER MUJI at MUJI Yurakucho

Visitors: 11,050



Gift: what design offers us — The
Keiji Nagai Collection / “Compo-
sition — Rules within objects”
exhibition / “The delightful tactile
illustrated book reading room
from France” exhibition / “LINK
TO LIFE” Scene With Tea exhibi-
tion / “Why don’t we see the
forest AND the trees!” exhibition

2018年6月29日(金)→2018年9月2日(日)

"The delightful tactile illustrated book reading room from France" exhibition
Friday, 29 June 2018 — Sunday, 2 September 2018

With them, we will all be taken on an adventure to explore somewhere new.



「おおきなきいろいサメのおはなし」《L'Histoire du Grand Requin Jaune》("The Big Yellow Shark Story"), by Régine Gondeau, Les Doigts Qui Rêvent, 1996.





絵本とポスターが生まれたところ

フランス・ブルゴーニュ地方のタランという街には、Les Doigts Qui Rêvent、(レ・ドワ・キ・レーヴ)、日本語で「夢見る指先」という意味をもつ、目の不自由な子どもたちのための絵本を作る工房があります。1993年に非営利団体として設立されてから、クリエイターや専門家、福祉作業所やボランティアが協働し、たくさんの人たちがアイデアやこころを込めて一冊一冊手で丁寧に作っています。美しく愛らしくさわって慈しむ絵本たちが、今日もここから生まれています。フランス語と英語の公式サイトから、絵本を買う事ができます。

► <http://www.ldqr.org>

さわる絵本コンテス Typhlo & Tactus ► <http://www.tactus.org>

Where the tactile books and poster were created

Les Doigts Qui Rêvent (Dreaming fingers) is a workshop that creates tactile illustrated books for blind and visually impaired children. Established as a non-profitable organization in Talant, Burgundy (France) in 1993, all their tactile books are made by hand one by one. Many people, such as creators, industry professionals, community workshops and volunteers, are involved in its cooperative creation process from ideas to realizations. Delightfully beautiful illustrated books are born every day in this place to be caressed by those who need them. Their tactile illustrated books are on sale at the official bilingual website (English / French):

► <http://www.ldqr.org>

Typhlo & Tactus ► <http://www.tactus.org>



「ちっちゃなて、ちっちゃなおやゆび」・Petite Main, Petit Pouce・("Small Hand, Tiny Thumb"), by Martine Perrin, Éditions du Seuil, 2012. Tactile adaptation by Marine Tellier and Solène Négrier, Les Doigts Qui Rêvent, 2017.

会場模型 [写真1]

会場の入り口に、展示空間全体をさわって把握できるように模型を用意しました。

Venue model [photo 1]

A model of the site design of the venue was on display at the entrance to let visitors get to know the entire exhibition space by exploring it with their fingers.

動線ガイド [写真2]

視覚に障がいのある方が安心して展示を愉しんでいただくために、会場内にさわれる動線ガイドとして壁面などに赤い桟木を設置しました。赤い色で障がいの有無にかかわらず動線をさまたげないように注意を喚起しつつ、木材の表面を特に丁寧に磨き、なめらかな手触りに仕上げました。

Exhibition route guide [photo 2]

In the venue, the exhibition route was suggested by a red wooden strip on the wall which acted as a tactile guide so that visually impaired visitors could enjoy the exhibition at ease. The wood was carefully polished to have a smooth surface, and was painted in red to attract the attention of all kinds of visitors with or without eye-sight issues.

音声ガイド [写真2]

展示のスタート地点に音声ガイドを設置しました。人感センサーや桟木上に設置したボタンを押す事で、展覧会情報が流れます。

Audio guide [photo 2]

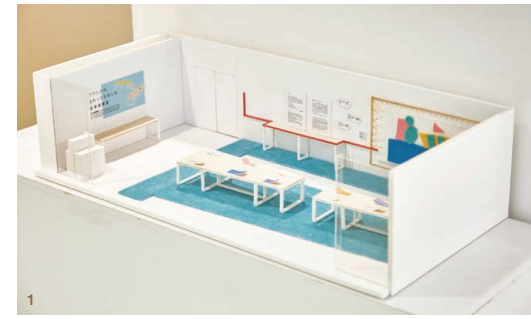
The audio guide was placed at the starting point of the exhibition. It was set off by a motion sensor and also by a button on the guide strip to give visitors audible information about the exhibition.

カーペット [写真2]

会場内の作品やテキストがある床面に色鮮やかなカーペットをひきました。床の色や素材感を変える事によって、目視だけでなく白杖や歩いた感触で動線を認識いただけます。

Carpet [photo 2]

The artworks and texts were marked with bright-



coloured carpet. Their shade and texture worked as a guide to help visitors recognize where to stop, either using their white canes, feeling while walking, or by sight.

点字テキスト [写真3]

展示した文字のテキスト(墨字)は、全て点字翻訳しました。また、子どもから大人まで、指で点字が読みやすい高さの水平な台を検証して設置しました。

Braille texts [photo 3]

All the displayed texts were also printed in braille. We carefully studied the height at which the braille would be displayed to be as appropriate as possible for visitors of all ages.



Tactile poster [photo 4,5]

It took 1 month for many volunteer workers to produce this tactile poster in the “Les Doigts Qui Rêvent” workshop. Many professionals such as designers, pediatric psychologists and teachers also got involved with the project in and outside of France. The work was specifically designed and created to induce various sensations and actions through touching many different textures and forms. It was important to have this large format, to prompt visitors to experience the poster at the same time as others; this created natural communication between people, with visitors stretching their bodies, arms and hands to reach to the upper part, or squatting down to feel what was at the bottom.

読書室 [写真6]

床のカーペットと桟木をつたっていくと、絵本と展示の説明文を置いたテーブルにたどり着きます。親子や親しい方と一緒に絵本を読んでいただくために、通常よりも余裕のある大きなテーブルを置きました。白杖を置いたり、盲導犬がテーブルの下にはいれるような余裕のある空間を設計しています。

Reading room [photo 6]

The textured floor carpet and the wooden strip on the wall guided the visitors to arrive at the table where tactile illustrated books and exhibition texts were placed. The size of the table was intentionally bigger than the normal size to allow more visitors to sit around it together to enjoy this reading experience; families or groups of friends. It was also designed to have more generous space underneath the table to allow people to leave their white canes, or let guide dogs have a rest there.

レ・ドワ・キ・レーヴの絵本 [写真7]

レ・ドワ・キ・レーヴの活動を始めたのは、フランスで小学校教師をされていたフィリップ・クロードさん。展示した絵本『アマンディーヌのゆかいなゆかいなくに』は、フィリップさんが最初に作った絵本です。アマンディーヌちゃんという目の不自由な生

徒のために、彼女が勉強する本や教材が本屋にも図書館にもないということで、その子のために自分で作ったことがきっかけでした。

Tactile illustrated books by “Les Doigts Qui Rêvent” [photo 7]

It was Philippe Claudet, a former elementary school teacher in France, who set up “Les Doigts Qui Rêvent”’s activity. He started with the first book “Au pays d’Amandine... dine, dine” (“In the country of Amandine... dine, dine”) which was one of the exhibited books. This book was created by Philippe for a visually impaired student called Amandine, when no suitable books or teaching materials could be found in bookstores or libraries at the time.

1人ではじめて絵本づくりですが、今ではNPOとしてたくさんの物語やデザイン、機能がある素敵なお本を開発、制作、販売をしています。その中でも繊細な絵本の一つが、「あかずきんちゃん」。布張りの箱に納められ、和紙のような風合いのある紙を使ったジャバラ折の絵巻のような仕様になっています。登場人物がいろいろな素材、大きさや色の丸で表現され、それが大きくなったり小さくなったりしながら物語が進みます。よく知られた赤ずきんちゃんの物語だからこそあらゆる世代や地域を越えてゆしめ、さわる事によってまた斬新かつ繊細でシンプルな中に驚きを感じる一冊です。[写真8]

This tactile illustrated book creation project originated from only one person, but it has now grown into an NPO (Non-profit organisation) that is engaged in developing, creating and selling brilliant books with many different stories, designs and functions. Among them all, one of the most delicate tactile illustrated books is “Little Red Riding Hood”. It has been created in an accordion format like picture scrolls, with folded textured paper similar to Japanese washi paper quality. All the characters are represented by various round shapes in different sizes and colours; they become bigger or smaller as the story goes along. This well-known tale of Little Red Riding Hood helped



everyone from all generations and regions to enjoy and fully experience the book, and more than that, reading it by touch rewarded us with an additional surprise from this original, dainty, yet simple creation. [photo 8]

写真4・5:「さわるポスター」 photo 4, 5: «Fresque tactile» (“Tactile Poster”) by Solène Négrier, Les Doigts Qui Rêvent.
写真7:「ちっちゃなて、ちっちゃなおやゆび」 photo 7: «Petite Main, Petit Pouce» (“Small Hand, Tiny Thumb”), by Martine Perrin, Éditions du Seuil, 2012. Tactile adaptation by Marine Tellier and Solène Négrier, Les Doigts Qui Rêvent, 2017.
写真8:「あかずきんちゃん」 photo 8: «Le Petit Chaperon Rouge» (“Little Red Riding Hood”) by Varja Lavater, Édition Maeght, 1965. Tactile adaptation by Myriam Colin, Les Doigts Qui Rêvent, 2006.

展覧会イベント

ギャラリーツアー

2018年7月2日(月)、8日(日)、23日(月)、30日(月)
各日 11:00-11:30
会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI
参加者数: 30名

担当キュレーターや運営スタッフと一緒に展示を体験するギャラリーツアーを実施しました。

Gallery tour

2 July (Mon), 8 July (Sun), 23 July (Mon),
30 July (Mon) 2018, 11:00-11:30
Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F
Participants: 30

Participants were accompanied by the curator and the atelier staff to experience the exhibition in a gallery tour.



トークショー 「目に見えない世界を歩く」

2018年8月1日(水) 18:00-19:30
会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI
講師: 広瀬浩二郎(国立民族学博物館准教授)
参加者数: 48名

さわることで開く感性や知性について、文化人類学者の広瀬浩二郎さんが語りました。

Talk show “Walking in an invisible world”

Wednesday, 1 August 2018, 18:00-19:30
Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F
Lecturer: Kojiro Hirose (Associate professor,
National museum of ethnology)
Participants: 48

Kojiro Hirose, cultural anthropologist, introduced how senses and intelligence opened up through tactility.



ワークショップ「さわる! 世界旅行」

2018年8月5日(日)
第1回 10:30-11:30 第2回 13:30-14:30
会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI
講師: 広瀬浩二郎(国立民族学博物館准教授)
参加者数: 43名

文化人類学者の広瀬浩二郎さんと、さわることによって新しい世界を巡るさわる体験ワークショップを開催しました。

Workshop “Let's touch! Tactile globetrotting”

Sunday, 5 August 2018
1.10:30-11:30 2.13:30-14:30
Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F
Lecturer: Kojiro Hirose (Associate professor,
National museum of ethnology)
Participants: 43

Kojiro Hirose, cultural anthropologist, invited participants to a tactile globetrotting experience in a new world.



広瀬浩二郎 [国立民族学博物館准教授]

1967年東京都生まれ。13歳の時に失明。専門は日本宗教史、触文化論。「ユニバーサル・ミュージアム」(誰もがたのしめる博物館)の実践的研究に取り組み、「さわる」をテーマとする各種イベントを全国で企画・実施している。『目に見えない世界を歩く』(平凡社新書)など、著書多数。

Kojiro Hirose [Associate professor, National museum of ethnology]

Born in Tokyo in 1967. Hirose lost his eyesight at the age of 13. His speciality is religion history in Japan and tactile culture theory. He studies practical research of “Universal Museum” (Museum For Everyone), plans and carries out various events concerning about “touching” all over Japan. He published numerous books including “Walking Invisible World” (Heibonsha Shinsho).

『フランスの、さわってのしむ絵本読書室』展

主催: 無印良品
空間・会場構成: 山岸綾(サイクル・アーキテツツ代表・建築家)
グラフィックデザイン: 大内かよ(OKデザイン室)
施工: bibariki
翻訳・コーディネーション: 大場千穂
協力: レ・ドワ・キ・レーヴ(夢見る指先)、広瀬浩二郎(国立民族学博物館准教授)
企画・運営: 株式会社良品計画 生活雑貨部 企画デザイン室、無印良品 有楽町 ATELIER MUJI
来場者数: 15,623人

“The delightful tactile illustrated book reading room from France” exhibition

Organizer: MUJI
Space / Site Design: Aya Yamagishi (Representative, Cycle Architects / Architect)
Graphic Design: Kayo Ouchi (OK Design Inc.)
Site construction: bibariki
Translation / Coordination: Chiho Oba
Cooperation: Les Doigts Qui Rêvent (Dreaming Fingers), Kojiro Hirose (Associate professor, National museum of Ethnology)
Planning and Management: Household Division / Planning & Design Creation Office, Ryohin Keikaku Co., Ltd. and ATELIER MUJI at MUJI Yurakucho
Visitors: 15,623



Gift: what design offers us — The
Keiji Nagai Collection / “Compo-
sition — Rules within objects”
exhibition / “The delightful tactile
illustrated book reading room
from France” exhibition / “LINK
TO LIFE” Scene With Tea exhibi-
tion / “Why don’t we see the
forest AND the trees!” exhibition

『「LINK TO LIFE」茶のある風景』展

2018年9月7日(金)→2018年10月7日(日)

日常茶(飯)事のすすめ

いつもの毎日、自分らしく丁寧に暮らす。

簡単そうで、意外と難しいことのひとつです。

日常茶飯事という日本語は、日々起こるありふれたこと、という意味ですが、その言葉に現されているたった一杯の「茶の事」が、感覚を開き、心を和ませ、人と人をつなぐ、むしろ日常と非日常のあわいが潜んでいるのかもしれませんが。本展では、生活の中で愉しみ味わう日本茶の可能性を拡張し、毎日のくらしに潤いや刺激をもたらす場をみなさんと一緒に味わいます。今日は、お茶でもいかがでしょう。

“LINK TO LIFE” Scene With Tea exhibition

Friday, 7 September 2018—Sunday, 7 October 2018

Suggestion for NICHUJO SA (HAN) JI [Everyday Tea Time]

To live life to the fullest and to appreciate all the little things are easy to say but hard to do. The Japanese word of NICHUJO SA HAN JI means everyday occurrences. A cup of tea of “CHA NO KOTO” of the word may imply a space between daily and nondaily life to open up our sense, soothe our heart, and connect people.

In this exhibition, we will expand a possibility of enjoying and tasting Japanese tea as well as taste the space sharing peace and stimulation in everyday life.

Would you like a cup of tea today?



「TEA TIME」時を刻む事を楽しむ。

丸若裕俊 [EN TEA]

豊かな時間を、茶を飲みながら過ごすのでは無く、茶を飲む限られた時間を、豊かだ。と思える心を持つこと。

古の人々は、その節に合わせた掛け軸を眺めながら茶を飲み、掛け軸の世界とのマリアージュに思いを馳せていた。しかしながら、今を生きる多くの人々は、そんな時間は過ごしてみたいけれども、ゆとりのある生活は出来ないと、諦めてしまっていないだろうか。

本展では、古の人々が掛け軸と茶の間に見出した時間の体験を、アーティストによる美しい写真と、私たちが誠実に向き合い作る茶、そしてみなさんがここで出逢うことで、茶のある時を刻んでいただきたい。

“TEA TIME” Enjoying Time Ticking

Hirotoishi Maruwaka [EN TEA]

It is more important to have a heart to feel a richness of a limited time to drink tea than spending a rich time while drinking tea. Ancient people drink tea while watching Kakejiku [a hanging scroll] in season and think of a marriage with the world of Kakejiku. I wonder if many people who live now give up having such a comfortable life despite wishing the moment. In this exhibition, we hope that you will enjoy the time with tea by meeting here with beautiful photos by the artists and tea made in our good faith as if the ancient people find the experience of the time with the Kakejiku and the tea in season.



forest#10 | 高木康行 | 2011年

[薪火晩茶]
 壮大でありながら慈悲深さで包み込んでくれる屋久島の森。こちらへ合わせるならばと選茶したのが、茶の木の枝ごと焙煎した“薪火晩茶”。茶葉という枠を超え、木や葉の持つ力強さと優しさを味わう事が出来る。

forest#10 | Yasuyuki Takagi | 2011

[Makibi Bancha]
 Made by roasting the whole leaf, stem included, Makibi Bancha was selected to echo the majestic yet welcoming forest of Yakushima Island. This tea takes you beyond the traditional concept of tea to enable you to experience the robust power and gentleness of trees and their leaves.

Kasa | Eric Pillault | 2016年

[水出しゆず緑茶]
 バリに住むEric氏だが、作品は全て日本で撮影するため、1枚1枚 彼の旅の物語を想像する。本作品では、旅先で出会った「美味しそうな柚子」が思い返され、雑談と共に、視覚と味覚が混ざり合う喜びを楽しめるよう、“水出しゆず緑茶”を選茶した。

Kasa | Eric Pillault | 2016

[Green Tea with YUZU]
 Paris-based Eric Pillault produces all his photographic works in Japan, with each image inviting us to imagine the story of his travels in this country. He once spoke of encountering a tantalizing yuzu fruit, an anecdote that inspired me to pair this photo of his with “Green Tea with YUZU,” so that partakers could enjoy chatting over a cup that delights both the eyes and the palate.



photocopy | 伊丹豪 | 2017年

【紅ほうじ茶】

写真それぞれの個性や物語が、順序を変えて見る事で多様に変化する本写真集には、紅ほうじ茶を。日本で生まれた品種の茶葉でありながら、烏龍茶や紅茶の高い香りを覗かせる味わいは、その環境や心境によって、たくさんの表情を表してくれる。



photocopy | Go Itami | 2017

【Beni Houji Tea】

Beni Houji Tea seemed the perfect choice for a photo book where the personality and story of each photo changes depending on the order in which you go through the album. Though created from a cultivar developed in Japan, this tea hints at the fragrances of oolong and black tea, offering a wide spectrum of expression that changes with your mood and environment.



植木 | 高木康行 | 2015年

【レモングラスほうじ茶】

都会だからこそ、自然の優しさや可愛らしさが、心地よく私たちを癒してくれる。厳選し仕上げられたほうじ茶に、国産レモングラスを合わせた茶を本写真集とともに味わうと、異なる存在がひとつになり、爽やかな余韻に浸ることが出来る。



UEKI | Yasuyuki Takagi | 2015

【Houji Tea with Lemongrass】

It's when we are in the city that nature's gentleness and charm truly soothe and exhilarate us. As you page through this photo book while savoring rigorously selected Houjicha blended with lemongrass grown in Japan, you will experience a sensation that fuses together two different worlds and immerses you in a refreshing afterglow.



Einmal ist Keinmal | 喜多村みか | 2013年

【釜炒り茶】

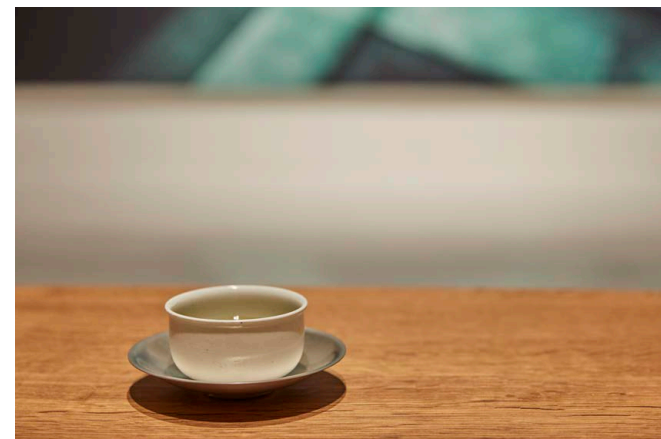
本写真集は、シャッターを切った本人が歩んだその足跡をドラマチックに、過去では無く今、そして未来に届けてくれる。日本に緑茶という文化が根付いた当時の風合いを、現在も色濃く残しているのが釜炒り茶だ。香ばしい匂いや色合いから、その昔の日本の風情を垣間見ていただきたい。



Einmal ist Keinmal | Mika Kitamura | 2013

【Kamairi Tea】

This photo book dramatically expresses the photographer's journey, not as a memorial of the past, but as a message for now—and the future. The soul of that era, when green tea culture was firmly implanted in Japan, is richly kept alive today in Kamairi Tea. The aroma of the pan-roasted leaves and their mellow hue create nostalgic glimpses of the old Japan.



展覧会イベント

ギャラリートーク

2018年9月8日(土) 14:00-15:30

会場：無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師：丸若裕俊 (EN TEA主宰)

参加者数：24名

日々の暮らしに、新しい茶の嗜みを提案している丸若裕俊さんが、本展覧会のコンセプトについてお話ししました。

Gallery talk

Saturday, 8 September 2018, 14:00-15:30

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturer: Hirotoshi Maruwaka (President, EN TEA)

Participants: 24

Hirotoshi Maruwaka, who proposed a new way of enjoying tea in everyday life, talked about the concept of the exhibition.

ティスティングタイム

2018年9月15日(土)、16日(日)、17日(月・祝)、
22日(土)、23日(日)

各日 14:00-15:30

会場：無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

会場に展示している写真にあわせた茶を会場で試飲しながら作品を鑑賞してもらうイベントを開催しました。

Tasting time

15 Sep (Sat), 16 Sep (Sun),

17 Sep (Mon / National holiday), 22 Sep (Sat),

23 Sep (Sun), 14:00-15:30

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

These tasting sessions were to enjoy teas inspired by the photos displayed in the gallery.



ワークショップ EN TEA×漢方

2018年9月9日(日) 14:00-15:30

2018年9月12日(水) 19:00-20:30

会場：無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師：丸若裕俊 (EN TEA主宰)、杉本格朗 (杉本薬局)

参加者数：18名

茶と漢方は、身体にどのような働きがあるのでしょうか？ 漢方薬局の杉本さんと、漢方と身体のお話しをしながら、自分にあわせた和漢植物と茶をブレンドするワークショップを開催しました。

Workshop EN TEA x Kampo (Japanese herbal medicine)

Sunday, 9 September 2018, 14:00-15:30

Wednesday, 12 September 2018, 19:00-20:30

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Hirotoshi Maruwaka (President, EN TEA),

Kakuro Sugimoto (Sugimoto pharmacy)

Participants: 18

How do they work in our bodies, tea and Kampo (Japanese herbal medicines)? In this workshop, Sugimoto, from a Kampo pharmacy, told some stories about Kampo and our bodies, and blended a selection of herbal medicines and teas for each participant's condition.

ワークショップ EN TEA×北欧 Sing Tehus

2018年9月28日(金) 19:00-20:30

2018年9月29日(土) 14:00-15:30

2018年9月30日(日) 14:00-15:30

会場：無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師：丸若裕俊 (EN TEA主宰)、Matte Kjaer (Sing Tehus)

参加者数：25名

デンマーク コペンハーゲンにて、自身でハーブを育てながらブレンドを手がけるティーブランド Sing Tehusを主宰するMatteさんを招き、さまざまなブレンドティーをティスティングしながら、北欧の暮らしと茶のある生活についてお話ししました。

Workshop EN TEA x Sing Tehus (Scandinavia)

Friday, 28 September 2018 19:00-20:30

Saturday, 29 September 2018 14:00-15:30

Sunday, 30 September 2018 14:00-15:30

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Hirotoshi Maruwaka (President, EN TEA), Matte Kjaer (Sing Tehus)

Participants: 25

Matte, the president of Sing Tehus in Copenhagen (Denmark) who grows herbs and blends her own teas, was invited to the workshop to give a tasting session as well as talking about tea in the Scandinavian way of life.

丸若裕俊

東京生まれ横浜育ち。多種多様な文化が交わる港町で幼少期を過ごし、日本の職人との衝撃的な出会いを機に「モノコトづくり屋」丸若屋を設立。日本文化との取り組みは、パリ、ミラノ、ロンドンなど数多くの評価を得る。自身の集大成と位置付ける「EATING GREEN TEA」を掲げた、畑から世界市場を生む茶葉ブランドEN TEAを2017年より始動。

Hirotoshi Maruwaka

Born in Tokyo and grew up in Yokohama. Maruwaka spent his childhood at a port city where a diverse variety of cultures meet, and established "Monokoto Making Machine" Maruwakaya with a shocking encounter with Japanese craftsmen. The Japanese culture initiative gains a lot of evaluations including Paris, Milan, and London etc. Launched the tea leaf brand EN TEA which produces the world market from the field, with "EATING GREEN TEA" positioned as the culmination of its own.



「[LINK TO LIFE] 茶のある風景」展

主催：無印良品

企画協力・会場設計：EN TEA

グラフィックデザイン：Eric Pillault

企画・運営：株式会社良品計画 生活雑貨部 企画デザ

イン室、無印良品 有楽町 ATELIER MUJI

来場者数：13,245人

"LINK TO LIFE" Scene With Tea exhibition

Organizer: MUJI

Cooperation / Site Design: EN TEA

Graphic Design: Eric Pillault

Planning and Management: Household Division /

Planning & Design Creation Office, Ryohin Keikaku Co.,

Ltd. and ATELIER MUJI at MUJI Yurakucho

Visitors: 13,245



「[LINK TO LIFE] 茶のある風景」展

会場 | 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI 入場無料

会期 | 2018年9月7日(金) ~ 2018年10月7日(日) 休館期間の場合は、それに準じます。

開催時間 | 10:00 ~ 21:00

企画協力・会場設計 | EN TEA グラフィックデザイン | ERIC PILLAULT

企画・運営 | 株式会社良品計画 生活雑貨部 企画デザイン室・無印良品 有楽町 ATELIER MUJI

"LINK TO LIFE" Scene With Tea exhibition

Exhibition period: Friday, 7 September 2018 - Sunday, 7 October 2018 (Open opening hours as MUJI Yurakucho store)

Opening hours: 10:00 - 21:00 Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Cooperation: MUJI Yurakucho, Cooperation: Ryohin Keikaku Co., Ltd. and ATELIER MUJI at MUJI Yurakucho

ATELIER MUJI

『木を見て森を見る!』展

Gift: what design offers us — The
Keiji Nagai Collection / “Composition — Rules within objects”
exhibition / “The delightful tactile
illustrated book reading room
from France” exhibition / “LINK
TO LIFE” Scene With Tea exhibi-
tion / “Why don’t we see the
forest AND the trees!” exhibition

『木を見て森を見る!』展

2018年10月12日(金)→2018年12月2日(日)

木を見て森を見る!

有名なことわざ「木を見て森を見ず」を辞書で調べてみると、小さい事に心を奪われて、全体を見通さないとえ、などとあります。では、「木を見て森を見る」とは?

小さいことから大きなものを想像し、そしてしっかり見据えること。木、を人に例えるならば、ひとりひとりの暮らしが社会を司ることをきちんと意識できるように目を見開き、そして大きな森である未来におもいを巡らすことではないでしょうか。

地球全体では、森林は急激な減少傾向にあります。私たち日本人の生活は、永きに渡りたくさんの木に囲まれている、と言っても過言ではありません。現在、日本の国土面積の約7割が森林で、特に先進国の中では世界有数の森林大国です。私たちも、日本の木や森のように、ひとびとの暮らしに潤いをもたらす存在でありたい、と考えます。

ぜひ、ここから、一緒に。

“Why don't we see the forest AND the trees!” exhibition

Friday, 12 October 2018 — Sunday, 2 December 2018

Why don't we “see the forest AND the trees”!

A well-known saying “Not seeing the forest for the trees” is an expression used of someone who is too involved in the details to look at the situation as a whole. If so, how about “Seeing the forest AND the trees”? It is like imagining something bigger from each tiny detail, and then examining it closely. If trees were people, our future would be like a big forest, so to speak. Everyone would become aware that individual lives can directly connect together to take charge of our society, and we would be able to think about a better future: the big forest. It is no exaggeration to say that we, as Japanese people, have been living our lives surrounded by trees for a long time, whereas the planet as a whole is now facing a sharp decrease in forest areas. Right now, about 70% of the total land area of Japan is forest. This shows that our country is one of the most forest-oriented, especially among the developed countries. We wish that we could exist as trees or forests in Japan, to give some sort of blessing to people's everyday lives.

So, let's start from here, together.





「つくりて」と「つかいて」

コイヤ協議会一同

「つくりて」と「つかいて」は、言葉は似ているけど、お互い遠い存在です。いつの間に、距離が空いたのでしょうか？ 遥か昔は、自分たちで道具を作って生活する「つくりて」=「つかいて」でした。現在のものづくりの多くは、分業化が進み「つくりて」と「つかいて」全く違うもの、下手をすれば対立するものになっています。

私たち、コイヤは、日本の木の産地と人をつなぐデザインプロジェクトです。というのも、私たちの多くのプロダクトは、産地が簡単につくれるように半完成品にしています。組み立てや仕上げは、買ってくれた人や大工さんが行います。つまり「つかいて」だった人が「つくりて」となるデザインをしています。今回の展覧会では、毎週ワークショップを行います。ワークショップを行いながら、みなさんと展示を豊かに育みたいと思います。木、という素材に触れること、手を動かすこと、何かを作ることの楽しさを味わえる「つくりて」になって欲しいと思います。

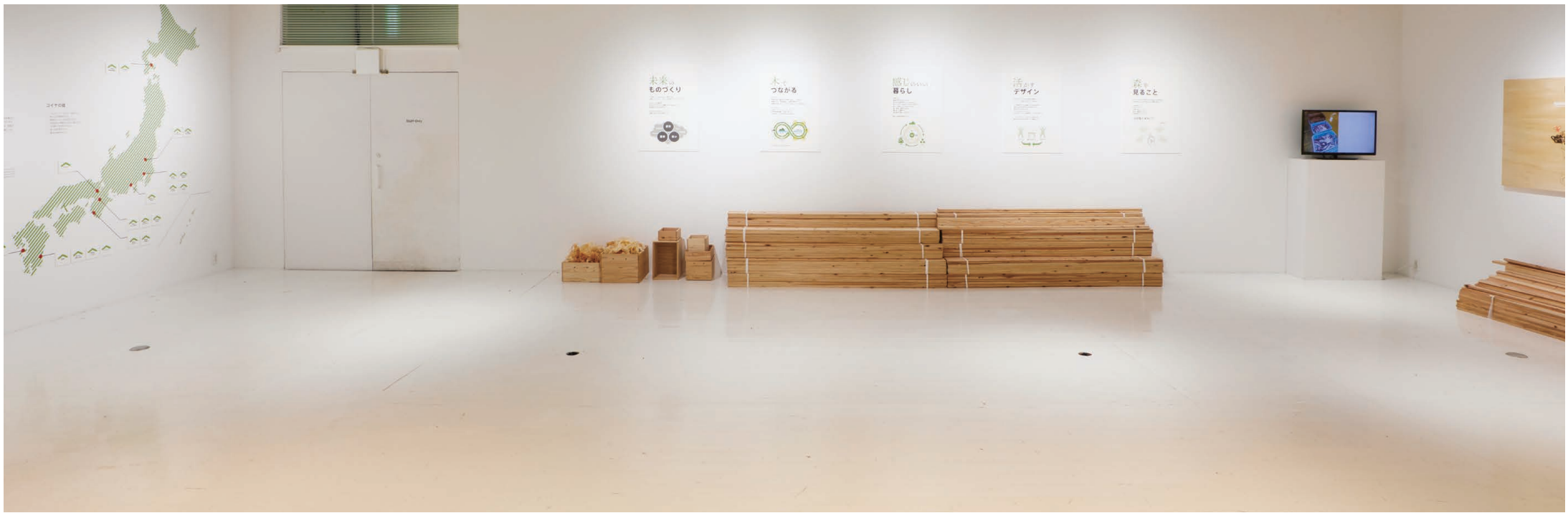
“Makers” and “Users”

From everybody in KOIYA

“Tsukuri-te (Makers)” and “Tsukai-te (Users)” – in the Japanese language, they sound very similar, although they are in fact very different in meaning.

When did this distance come about? Far in the past, “Makers” were also “Users”, as we made our tools and then used them everyday. In the recent era, “Makers” are moving farther away from “Users” and in some cases these two parties are opposed to each other, as our society is becoming more divided in each individual specialisation. Our KOIYA project is a design project to connect people to Japanese forestry districts.

To achieve this, most of our products are only half-completed, so that the forestry area can produce it more easily. These products will be assembled or finished by the people or carpenters who are buying them. Hence, they are designed to transform “Users” into “Makers”. Weekly workshops will be organised during the exhibition, enriching its content thanks to your contributions as participants. We hope that you too will become one of the “Makers”, touching and handling wood as a creative material, and finding joy in making something yourself.



展覧会イベント

ウッドフラワーづくり

2018年10月12日(金) 12:30-14:00, 14:30-16:00

2018年10月13日(土) 10:30-12:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 八木美紀 (宮崎県森林林業協会)

協力: 梶原和徳 (宮崎県)

参加者数: 33名

かんなくずを使って、花を作るワークショップ。花びらを一枚一枚束ねた、木目の美しい花を作りました。

Wooden flower making

Friday, 12 October 2018, 12:30-14:00, 14:30-16:00

Saturday, 13 October 2018, 10:30-12:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Miki Yagi (Miyazaki Prefecture Forestry Association),

Cooperation: Kazunori Kajiwara (Miyazaki Prefecture)

Participants: 33

A workshop to create a flower from wood shavings. Each petal was placed one by one to make this beautifully grained wooden flower.



トークショー「木を見て森を見る!」

2018年10月12日(金) 19:00-20:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

登壇者: 若杉浩一 (パワープレイス株式会社)、鈴木道和 (北海道)、鈴木正樹 (株式会社ハルキ)、梶原和徳 (宮崎県)、石田達也 (NPO法人 宮崎文化本舗)、白石修務 (鹿沼Wood Ifill LLP)、和田浩一 (株式会社STUDIO KAZ)、小山裕介 (torinoko)

参加者数: 50名

本展に協力して頂いている日本各地の産地の方々が、木や森のこと、そしてものづくりについて語りました。

Talk show

“Let’s see the forest AND the trees!”

Friday, 12 October 2018, 19:00-20:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F
Speakers: Koichi Wakasugi (Powerplace Inc.), Michikazu Suzuki (Hokkaido Prefecture), Shoji Suzuki (Haruki Co., Ltd.), Kazunori Kajiwara (Miyazaki Prefecture), Tatsuya Ishida (Non-Profit Organization Miyazaki Bunka Honpo), Osamu Shiraishi (Kanuma Wood INFILL LLP), Coichi Wada (STUDIO KAZ Co., Ltd.), Yusuke Koyama (torinoko)
Participants: 50

Woods, forests and product making - those who cooperated in making this exhibition from Japanese forestry districts got together to talk all about it.



杉の床を貼ってみよう!

2018年10月13日(土)

12:30-14:00, 14:30-16:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 中川徹 (中川総合建築)

協力: 川上宰 (株式会社川上木材)、川添英司 (ゆうばく人)

参加者数: 15名

会場の床を、みんなで貼るワークショップ。杉に関する知識や、フローリングの張り方や剥がし方、メンテナンスの方法を学びました。

Let's install cedar flooring!

Saturday, 13 October 2018,

12:30-14:00, 14:30-16:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Toru Nakagawa (HEART HOME),

Cooperation: Osamu Kawakami (Kawakami Mokuzai Co., Ltd.), Eiji Kawazoe (Youbokuzin)

Participants: 15

A workshop to install cedar flooring in the gallery space. Participants learned about cedar wood, how to install / remove the flooring and how to maintain it.



杉の床を貼ってみよう!

カスタネットづくり

10月14日(日) 10:30-12:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 佐藤司 (北海道渡島総合振興局)

参加者数: 55名

北海道産「トドマツ」や「道南スギ」を使ってカスタネットを作るワークショップ。工作を通じて素材の軽さや柔らかさを感じながら自分だけのオリジナルのカスタネットを作りました。

Making castanets

Sunday, 14 October, 10:30-12:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Tsukasa Sato (Hokkaido Oshima Sub prefecture)

Participants: 55

A workshop to make castanets with “abies sachalinensis” or “Southern Hokkaido cedar” from Hokkaido. Appreciating the wood's lightness and flexibility, participants were able to make their own original castanets.



杉の積み木づくり

10月14日(日) 10:30-12:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 鈴木正樹 (株式会社ハルキ)

協力: 宮川多恵 (和信化学工業株式会社)

参加者数: 10名

積み木が入る木枠作りと積み木の最終工程のヤス

リ磨きをするワークショップ。好きな色で塗った積み木を作りました。

Wooden building block making

Sunday, 14 October, 10:30-12:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Shoji Suzuki (Haruki Co., Ltd.),

Cooperation: Tae Miyagawa (Washin Chemical Industry Co., Ltd.)

Participants: 10

In this workshop, participants made wooden frames for building blocks. They also polished and painted them in their chosen colours as the final process.



杉のキッチンをつくろう!

2018年10月14日(日) 14:30-16:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 和田浩一 (株式会社STUDIO KAZ)

協力: 鈴木正樹 (株式会社ハルキ)

参加者数: 10名

コイヤの木製キッチンを組み立て、会場の中央に展示しました。

Let's make a cedar kitchen!

Sunday, 14 October 2018, 14:30-16:00

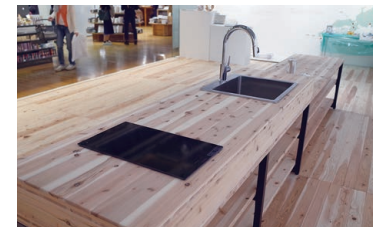
Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Coichi Wada (STUDIO KAZ Co., Ltd.)

Cooperation: Shoji Suzuki (Haruki Co., Ltd.)

Participants: 10

The KOIYA wooden kitchen was assembled and installed in the centre of the exhibition venue.



杉のキッチン塗装しよう!

2018年10月14日(日) 16:30-18:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 和田浩一(株式会社STUDIO KAZ)、宮川多恵(和信化学工業株式会社)

協力: 鈴木正樹(株式会社ハルキ)

参加者数: 11名

コイヤの木製キッチンはちょっとだけ水に弱いので、作った後の塗装によるメンテナンス方法を学びました。

Let's paint a cedar kitchen!

Sunday, 14 October 2018, 16:30-18:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Coichi Wada (STUDIO KAZ Co., Ltd.),

Tae Miyagawa (Washin Chemical Industry Co., Ltd.),

Cooperation: Shoji Suzuki (Haruki Co., Ltd.)

Participants: 11

As the KOIYA wooden kitchen is less resistant to water compared with other materials, participants learned how to maintain it with a final coating in this workshop.



トークショー「木とキッチン」

2018年10月17日(水) 19:00-20:30

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

登壇者: 和田浩一(株式会社STUDIO KAZ)

参加者数: 13名

オーダーキッチンのプロが、木でできたキッチンの魅力についてお話ししました。

Talk show "Wood in a kitchen"

Wednesday, 17 October 2018, 19:00-20:30

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Speakers: Coichi Wada (STUDIO KAZ Co., Ltd.)

Participants: 13

A professional in made-to-order kitchens talked about the charm of wooden kitchens.



トークショー「木とキッチン」

ヒノキのビスケットネックレスづくり

2018年10月19日(金) 10:30-18:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 鳥居由佳(林業アーティスト)、森谷哲也(bonobojapan)

参加者数: 34名

尾鷲ヒノキ2枚のデザインパーツを組み合わせて自分で作るビスケットネックレスを作りました。

Hinoki biscuit necklace making

Friday, 19 October 2018, 10:30-18:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Yuka Torii, Tetsuya Moriya (bonobojapan)

Participants: 34

With combinations of 2 pieces of Owase Cypress, participants made handicraft biscuit necklaces in the workshop.



杉のしずくアクセサリづくり

2018年10月20日(土)、2018年10月21日(日)

各日 10:30-12:00、14:30-16:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 鈴木千夏、竹内加奈子

協力: 鈴木正樹(株式会社ハルキ)

参加者数: 35名

道南スギの木片を磨き装飾するワークショップ。木目の風合いが違う自分だけのオリジナルアクセサリを作りました。

Accessory making with cedar drops

20 October (Sat), 21 October (Sun) 2018,

10:30-12:00, 14:30-16:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Chinatsu Suzuki, Kanako Takeuchi

Cooperation: Shoji Suzuki (Haruki Co., Ltd.)

Participants: 35

This was a workshop to polish and decorate Southern Hokkaido cedar pieces. Different wood grains in each piece helped to make each finished accessory original and unique.



フレッシュ素材で作るクリスマスリースづくり

2018年10月20日(土)、2018年10月21日(日)

各日 12:30-14:00、16:30-18:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 源真紀(有限会社スタジオ嶋)

協力: 鈴木正樹(株式会社ハルキ)

参加者数: 54名

生のモミ、スギ、ヒノキなどを組み合わせて作る本格的なクリスマスリースを作りました。

Christmas wreath making with fresh materials

20 October (Sat), 21 October (Sun) 2018,

12:30-14:00, 16:30-18:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Maki Minamoto (Studio Shima)

Cooperation: Shoji Suzuki (Haruki Co., Ltd.)

Participants: 54

Participants enjoyed making authentic Christmas wreaths using fresh fir, cedar and hinoki.



フレッシュ素材で作るクリスマスリースづくり

いい眠りのコツと杉のベッドをつくろう!

2018年10月21日(日) 16:30-18:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 山崎紘子(株式会社良品計画)、中尾浩士(パワープレイス株式会社)

参加者数: 4名

無印良品のインテリアアドバイザーが眠りについてのコツをお話して、参加者全員でベッドを製作して、眠りを体験するワークショップを開催しました。

Secrets of quality sleep and cedar bed frame making!

Sunday, 21 October 2018, 16:30-18:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Hiroko Yamazaki (Ryohin Keikaku Co., Ltd.), Koji Nakao (Powerplace Inc.)

Participants: 4

This workshop began with a MUJI interior advisor introducing secrets for quality sleep. Then all participated in creating a bed frame and trying to sleep in it.



「つくれる家具」 杉のツールをつくらう！

2018年10月27日(土)、2018年10月28日(日)
各日 10:30-16:00

会場：無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師：賀来寿史(吉野杉デザイン研究所)

協力：石橋輝一(吉野中央木材株式会社)

参加者数：8名

杉の板をノコギリで切り、金づちで釘を打ち、ツールを作るワークショップ。道具の使い方や木の性質、木を巡る、山とまちの循環などを一脚のツールづくりを通じて体感しました。

“DIY furniture” Let’s make a cedar stool!

27 October (Sat), 28 October (Sun) 2018,

10:30-16:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Hisashi Kaku (Yoshino-sugi Design Lab.)

Cooperation: Teruichi Ishibashi (Yoshino Chuo Mokuzai Co., Ltd.)

Participants: 8

The workshop consisted of sawing cedar planks, inserting nails with a hammer, and making a stool.

Through making the stool, we learned about how to use tools, characteristics of wood, and experienced a cycle involving trees linking towns and mountains.



トークショー「木と椅子」

2018年10月27日(土) 16:30-18:00

会場：無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

登壇者：賀来寿史(吉野杉デザイン研究所)、寛浩史(パワープレイス株式会社)

参加者数：15名

木がないと家具はつくれません。木工家にとって、木はとても大切なものです。家具作りのプロが人と木と山のつながりを語りました。

Talk show “Wood and chairs”

Saturday, 27 October, 16:30-18:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Speakers: Hisashi Kaku (Yoshino-sugi Design Lab.),

Hiroshi Kakei (Powerplace Inc.)

Participants: 15

There is no furniture making without wood. For woodcraftsmen, woods are so important. A professional in furniture making talked about how everything is connected between people, trees and mountains.



トークショー「木と塗料」

2018年10月31日(水) 19:00-20:30

会場：無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

登壇者：宮川多恵(和信化学工業株式会社)、小山裕介(torinoko)

参加者数：26名

適切に塗料を使うことで、木と人が長く共存できる方法について塗料メーカーのプロがノウハウを語りました。

Talk show “Wood and coatings”

Wednesday, 31 October 2018, 19:00-20:30

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Speakers: Tae Miyagawa (Washin Chemical Industry Co., Ltd.), Yusuke Koyama (torinoko)

Participants: 26

Using an appropriate coating can preserve woods for us humans for a long time. A professional from a coating manufacturer shared her know-how with participants.



鹿沼組子づくり

2018年11月3日(土)

12:30-13:30、14:00-15:00、15:30-16:30

会場：無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師：渋江康二(鹿沼建具木工組合)、吉原秀美(鹿沼建具木工組合・栃木県伝統工芸士)

協力：白石修務(鹿沼Wood INFILL LLP)

参加者数：32名

桧製のパーツを組み合わせて、六角形の麻の葉模様や胡麻柄の組子を組み立てるワークショップを開催しました。

Kanuma Kumiko making

Saturday, 3 November 2018,

12:30-13:30, 14:00-15:00, 15:30-16:30

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Kouji Shibue (Kanuma joinery Union

Commerce and Industry), Hidemi Yoshihara (Kanuma

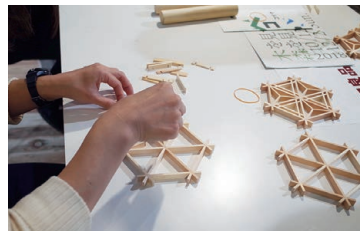
joinery Union Commerce and Industry / Traditional

Craftsman of Tochigi Prefecture)

Cooperation: Osamu Shiraishi (Kanuma Wood INFILL LLP)

Participants: 32

In this Kumiko-making workshop, participants joined Hinoki parts together to create hexagonal flax-leaf or sesame-motif Kumikos.



射的・ゴム鉄砲のびーすぴすとるづくり

2018年11月3日(土) 12:30-18:00

会場：無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師：鹿沼のすごい木エプロジェクト

協力：内田昌義(鹿沼のすごい木エプロジェクト)、菅野幸照(白石物産株式会社)

参加者数：13名

杉のパーツを組み立てて、3連ゴム鉄砲(びーすぴすとる)を作りました。

Shooting gallery Rubber band gun “Peace Pistol” making

Saturday, 3 November 2018, 12:30-18:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Kanuma Incredible Woodworking Project

Cooperation: Masayoshi Uchida (Kanuma Incredible Woodworking Project), Yukiteru Kannno (SHIRAIISHI BUSSANN Co., Ltd.)

Participants: 13

Participants made tripartite rubber band guns (peace pistols) with cedar parts.



杉の箱をつくらう！

2018年11月4日(日)

10:30-12:00, 12:30-14:00, 14:30-16:00

会場：無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師：小山裕介(torinoko)

参加者数：24名

フローリング材を使って杉の箱を作りました。

Let’s make a cedar box!

Sunday, 4 November 2018,

10:30-12:00, 12:30-14:00, 14:30-16:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturer: Yusuke Koyama (torinoko)

Participants: 24

Cedar boxes were made from flooring materials in this workshop.



トークショー 「木と林業アーティスト」

2018年11月9日(金) 19:00-20:30

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

登壇者: 鳥居由佳(林業アーティスト)、若杉浩一(パワープレイス株式会社)

参加者数: 27名

豊かな山があってこそ、豊かな海がつくれる。当たり前前に“在る”ことに気付くことの大切さ。林業アーティストが海と山をつなぐ活動についてお話ししました。

Talk show

“Wood and a forestry artist”

Friday, 9 November 2018, 19:00-20:30

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Speakers: Yuka Torii, Koichi Wakasugi (Powerplace Inc.)

Participants: 27

Fertile mountains preserve fertile oceans. It is important to realise how these two must co-exist naturally. A forestry artist talked about her activities to connect oceans and mountains.



ティッシュケースづくり

2018年11月10日(土) 10:30-12:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 吉田道生(細田木材工業株式会社)

参加者数: 9名

「ティッシュケース」の木製パーツを組み立てるワークショップを開催しました。

Tissue box making

Saturday, 10 November 2018, 10:30-12:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Michio Yoshida (Hosoda Wood Industries, Inc.)

Participants: 9

In this workshop, flat-packed “tissue boxes” were assembled with wooden parts.



ティッシュケースづくり

コーヒードリッパースタンドづくり

2018年11月10日(土)

12:30-14:00, 14:30-16:00, 16:30-18:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 吉田道生(細田木材工業株式会社)

参加者数: 34名

「コーヒードリッパースタンド」の木製パーツを組み立てるワークショップを開催しました。

Coffee dripper stand making

Saturday, 10 November 2018,

12:30-14:00, 14:30-16:00, 16:30-18:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Michio Yoshida (Hosoda Wood Industries, Inc.)

Participants: 34

In this workshop, participants made a “coffee dripper stand” with wooden parts.



ヒノキのハザイガンづくり

2018年11月11日(日)

10:30-12:00, 14:30-16:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 倉内慎介(パワープレイス株式会社)

参加者数: 15名

熊本県天草市にある「かしの木学園」では、日々面白い形の端材(はざい)がでます。その端材を使って、自分だけのカッコいい『ハザイガン』をつくるワークショップを開催しました。

Making a gun with hinoki offcuts

Sunday, 11 November 2018,

10:30-12:00, 14:30-16:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Shinsuke Kurauchi (Powerplace Inc.)

Participants: 15

At Kashinoki Gakuen Institute, funny shaped offcuts are produced everyday. In this workshop, a one-and-only, cool “offcut gun” was made with these parts.



縁日

2018年11月17日(土)、11月18日(日)

各日 10:30-18:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 鹿沼のすごい木エプロジェクト

協力: 田代直也(有限会社栃木ダボ製作所)、内田昌義(鹿沼のすごい木エプロジェクト)

参加者数: 95名

木製の金魚やおめんに好きな色をぬってみたい、射的を楽しめる縁日を開催しました。

Ennichi fair

17 November (Sat), 18 November (Sun) 2018,

10:30-18:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Kanuma Incredible Woodworking Project

Cooperation: Naoya Tashiro (TOCHIGI DABO SEISAKUJO Co., Ltd.), Masayoshi Uchida (Kanuma Incredible Woodworking Project)

Participants: 95

A fun Ennichi fair came to ATELIER MUJI where participants could enjoy painting wooden goldfish and masks, or have fun in a shooting gallery.



家具の脚を使ったとばし絵づくり

2018年11月24日(土)、2018年11月25日(日)

各日 11:00-12:00

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 廣本直子(一般社団法人MAP アトリエもじけハウス)

協力: 迫平隆志(株式会社山長商店)、杵村史朗(株式会社4CYCLE)

参加者数: 19名

木製組立家具の脚部パーツと画用紙に塗料を飛ばして描く、とばし絵のワークショップを開催しました。

Splash painting on furniture legs

24 November (Sat), 25 November (Sun) 2018,

11:00-12:00

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Naoko Hiromoto (MAP Institute, Atelier MOJIKE HOUSE),

Cooperation: Takashi Sakohira (YAMACHO Co., Ltd.), Shiro Kinemura (4CYCLE)

Participants: 19

In this workshop, splash painting was applied to leg parts of wooden flatpack furniture and on drawing papers.



とばし絵の脚を使った家具づくり

2018年11月24日(土)、2018年11月25日(日)

各日 13:30-14:30

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 杵村史朗(株式会社4CYCLE)

協力: 迫平隆志(株式会社山長商店)

参加者数: 7名

とばし絵の脚を使って、つみきのような仕口デザイン家具を組み立てました。

Furniture Making with splash-painted legs

24 November (Sat), 25 November (Sun) 2018,

13:30-14:30

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

Lecturers: Shiro Kinemura (4CYCLE)

Cooperation: Takashi Sakohira (YAMACHO Co., Ltd.)

Participants: 7

Furniture with building-block style joints was assembled with splash-painted legs.



木のとばし絵はがきづくり

2018年11月24日(土)、2018年11月25日(日)

各日 15:30-16:30

会場: 無印良品 有楽町 2F ATELIER MUJI

講師: 廣本直子(一般社団法人MAP アトリエもじけハウス)

協力: 迫平隆志(株式会社山長商店)、杵村史朗(株式会社4CYCLE)

参加者数: 21名

木のはがきに「とばし絵」を施し、色とりどりになった「木製とばし絵はがき」を作りました。

Splash painting on a wooden postcard

24 November (Sat), 25 November (Sun) 2018,

15:30-16:30

Venue: ATELIER MUJI, MUJI Yurakucho 2F

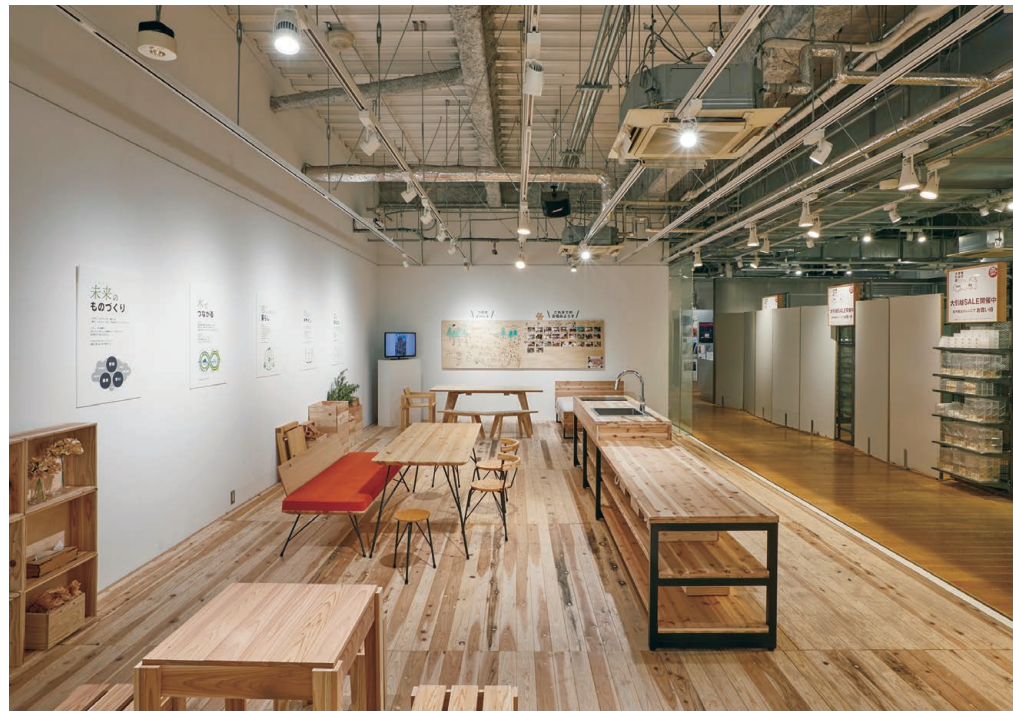
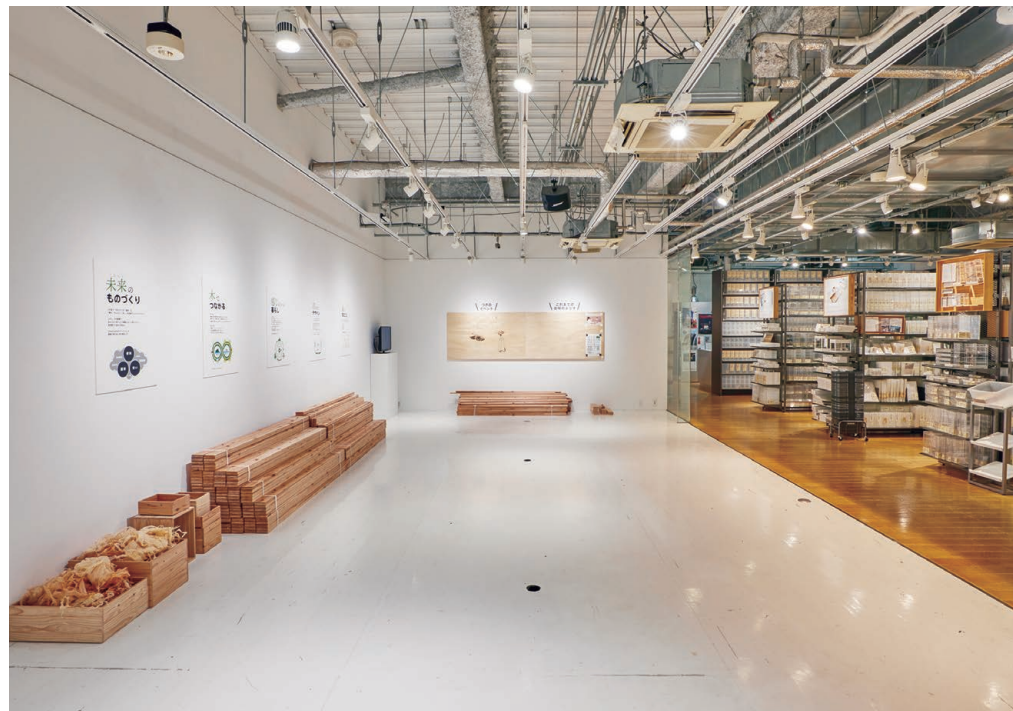
Lecturers: Naoko Hiromoto (MAP Institute, Atelier MOJIKE HOUSE)

Cooperation: Takashi Sakohira (YAMACHO Co., Ltd.),

Shiro Kinemura (4CYCLE)

Participants: 21

Participants used the splash painting technique to make colourful wooden postcards.



コイヤ協議会

私たちは、地域の自然や風景を守り、未来に伝えていくために活動します。私たちの暮らしは、技術の進歩により便利で豊かになりましたが、知らない間に地域の伝統や文化、風景が色褪せてしまいました。もう一度そこにあるもので生きていく、当たり前の暮らしを取り戻すことが必要だと感じています。そのために、森林大国である日本は、産地・作り手・使い手が「木」で繋がるのが大切だと考えました。地域の大切な資源を使って、地域で作り、地域で使い、地域で育んでいく、モノを通じて沢山のコトがつながる新しいモノづくりを提案していきます。

KOIYA (Association for connecting local forestry districts, local manufacturing and society)

We act to protect nature and scenery in each area, and to pass them on to future generations. Many local traditions, cultures and landscapes from our everyday lives have been lost in recent times. On the other hand, our lives are becoming enriched by convenience enabled by advances in technology. We feel that we need to look back to where we were in the past, going back to live a basic life using essential items we already have. It made us realise that as one of the most forest-oriented countries it is important to connect all of us; forestry districts, makers, users; through "wood". We continue to propose new ways of making things with precious local materials by using, producing and growing them locally.

若杉浩一 [パワープレイス株式会社シニアディレクター・プロダクトデザイナー]

1959年生まれ。熊本県天草郡出身。九州芸術工科大学芸術工学部工業設計学科卒。1984年株式会社内田洋行入社。内田洋行のデザイン会社パワープレイス株式会社にリレーションデザインセンター設立。2004年、戦後の植林で杉だらけになってしまった日本の山林の有効活用を推進する日本全国スギダラケ倶楽部を南雲勝志氏と設立。ドイツIF賞、DESIGNPLUS特別賞受賞、2007年度まちづくり大賞をスギダラケ倶楽部にて受賞。

Koichi Wakasugi [Senior Director, Powerplace Inc. / Product Designer]

Born in Amakusa-gun, Kumamoto Prefecture in 1959. Graduated from the Department of Industrial Design, School of Design, Kyushu Institute of Design. Joined in Uchida Yoko Co., Ltd. in 1984. Wakasugi founded Relation Design Center in Powerplace Inc, the design company of Uchida Yoko Co., Ltd.. In 2004, he established Activities of all Japan Sugidarake (Full of Cedar) Club promoting more effective use of Japanese mountain forests, which have covered with cedar due to post-war planting with Mr. Katsushi Nagumo. Received iF design award and Design Plus special award in Germany, and Town Planning Award 2007 for Sugidarake Club.



『木を見て森を見る!』展

主催：無印良品

会場設計：パワープレイス株式会社

協力：コイヤ協議会（地域の森、地域のものづくりと社会をつなぐ、連合体）

北海道渡島総合振興局、宮崎県、日本全国スギダラケ倶楽部、パワープレイス株式会社、株式会社STUDIO KAZ、torinoko、NPO法人宮崎文化本舗、株式会社川上木材、ゆうぼく人、株式会社山長商店、株式会社4CYCLE、吉野中央木材株式会社、株式会社ハルキ、株式会社イヨベ工芸社、鹿沼Wood INFILL LLP、有限会社栃木ダボ製作所、しもうら弁天会、Propeller（松下木工所）、和信化学工業株式会社、吉野杉デザイン研究所、鳥居由佳 & bonobojapan、細田木材工業株式会社（順不同）

企画・運営：株式会社良品計画 生活雑貨部 企画デザイン室、無印良品 有楽町 ATELIER MUJI

来場者数：35,344人

"Why don't we see the forest AND the trees!" exhibition

Organizer: MUJI

Site design: Powerplace Inc.

Cooperation: KOIYA (Association for connecting local forestry districts, local manufacturing and society) Hokkaido Oshima Subprefecture, Miyazaki Prefecture, All Japan sugidarake club, Powerplace Inc., STUDIO KAZ Co., Ltd., torinoko, Non-Profit Organization Miyazaki Bunka Honpo, Kawakami Mokuzai Co., Ltd., Youbokuzin, YAMACHO Co., Ltd., 4CYCLE inc., Yoshino Chuo Mokuzai Co., Ltd., Haruki Co., Ltd., IOBE Co., Ltd., Kanuma Wood INFILL LLP, TOCHIGI DABO SEISAKUJO Co., Ltd., Shimoura Bentenkai, Propeller, Washin Chemical Industry Co., Ltd., Yoshino-sugi Design Lab., Yuka Torii & bonobojapan, Hosoda Wood Industries, Inc.

Planning and Management: Household Division / Planning & Design Creation Office, Ryohin Keikaku Co., Ltd. and ATELIER MUJI at MUJI Yurakucho

Visitors: 35,344



ATELIER MUJI Archive 2018

来場者合計：110,362人

主催：無印良品
企画・運営：株式会社良品計画 生活雑貨部 企画デザイン室・無印良品 有楽町 ATELIER MUJI
ATELIER MUJIシニア・キュレーター：鈴木潤子
ATELIER MUJIチーム：永田貴大、小嶋紗代子、椋本真理子、椋山由香、東美由希、増山郁、遠藤紗和見、綿引尚
会場撮影：尾原深水
ATELIER MUJI：<https://atelier.muji.com/jp/>

本年報の作成にあたり、ご協力及び
ご助言いただきました皆様に感謝申し上げます。

発行日：2019年3月12日
発行元：株式会社良品計画
〒170-8424 東京都豊島区東池袋4丁目26番3号
発行者：株式会社良品計画 生活雑貨部 企画デザイン担当部長 矢野直子
編集者：無印良品 有楽町 ATELIER MUJI 椋山由香
グラフィックデザイン：松本正樹
翻訳：大場千穂、椋山由香

*掲載している方の略歴は、開催当時のものを掲載しています。

ATELIER MUJI Archive 2018

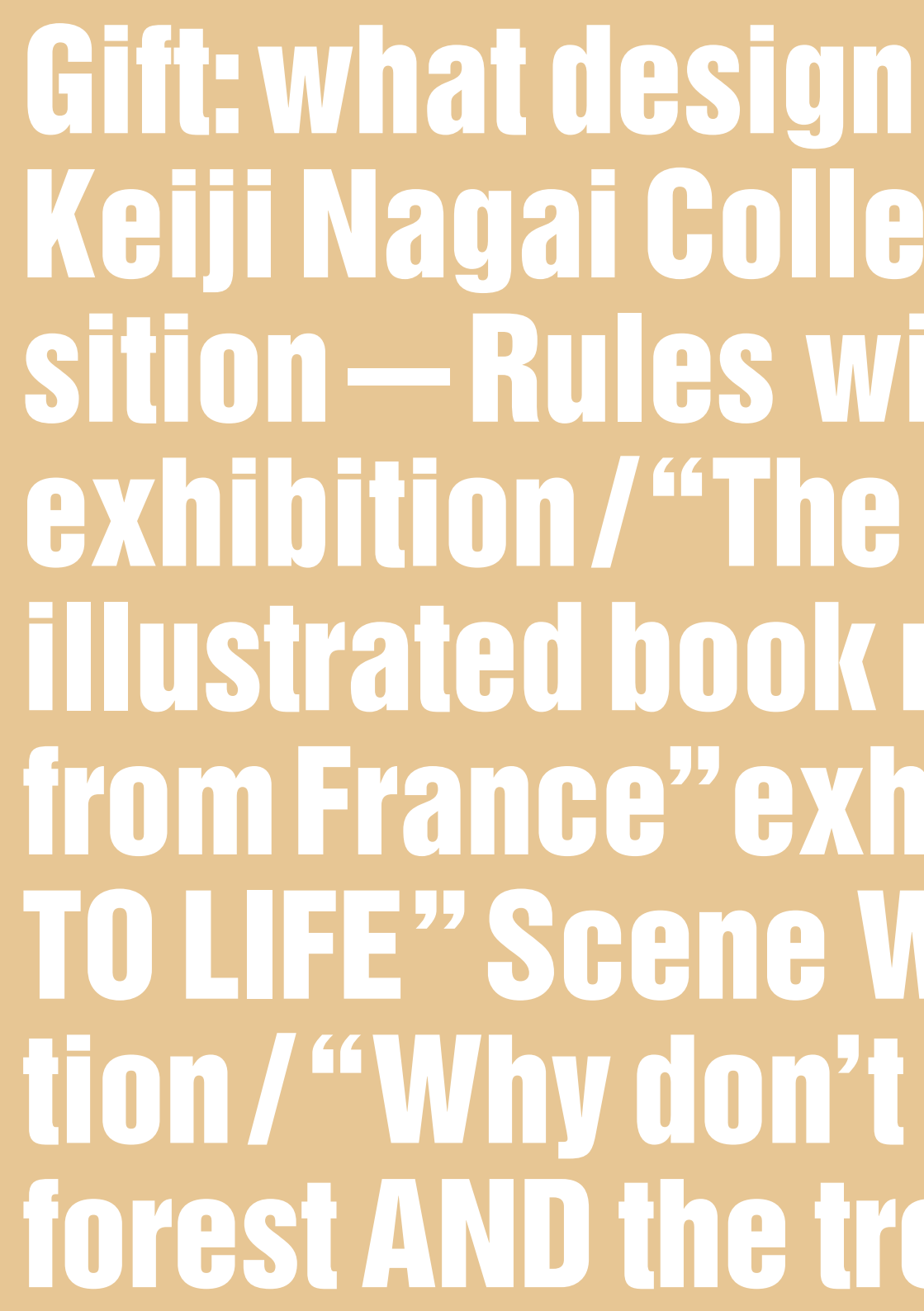
Total number of visitors: 110,362

Organiser: MUJI
Planning and Management: Household Division /
Planning & Design Creation Office, Ryohin Keikaku Co., Ltd.
and ATELIER MUJI at MUJI Yurakucho
ATELIER MUJI Senior curator: Junko Suzuki
ATELIER MUJI Team: Takahiro Nagata, Sayoko Kojima,
Mariko Mukumoto, Yuka Sugiyama, Miyuki Tou, Iku
Mashiyama, Sawami Endo, Nao Watahiki
Exhibition venue photos: Shinsui Ohara
ATELIER MUJI: <https://atelier.muji.com/jp/>

We would like to thank everyone for all the cooperation
and advice for editing this year book.

Published: 12, March 2019
Publishing Company: Ryohin Keikaku Co., Ltd.
4-26-3, Higashi-Ikebukuro, Toshimaku, Tokyo,
170-8424 JAPAN
Publisher: Naoko Yano, General manager of Planning &
Design, Household Devision, Ryohin Keikaku Co., Ltd.
Editor: Yuka Sugiyama, ATELIER MUJI at MUJI
Yurakucho
Graphic design: Masaki Matsumoto
Translation: Chiho Oba, Yuka Sugiyama

*All the biographical information was correct
at the time of each exhibition.



Gift: what design
Keiji Nagai Colle
sition — Rules wi
exhibition / “The
illustrated book
from France” exh
TO LIFE” Scene W
tion / “Why don’t
forest AND the tro